

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

日本史

生徒の問いを
起点とする学習で、
自分で学ぶ力を育む

栃木県・私立宇都宮文星女子高校

篠原孝文 しのはら・たかふみ

同校に赴任して25年目。
学習指導部部長。地理歴史科（日本史）。



学校概要

◎設立 1929（昭和4）年 ◎形態 全日制／秀英特進科、普通科、総合ビジネス科／女子校 ◎生徒数 1学年約180人
◎2023年度卒業生進路実績 国公立大は、宇都宮大、新潟大、横浜市立大、山梨県立大に4人が合格。私立大は、自治医科大、駒澤大、東洋大、明治学院大、立教大、立命館大などに延べ93人が合格。短大・専門学校進学86人。就職47人。

私が
目指している
授業

常に変化する社会では、明確な正解がないため、自分に必要なことを自分で学び続ける力が求められます。しかし、以前の本校の生徒には、何事にも受け身的な傾向が見られました。そこで3年前、授業に自由進度学習と探究的な学習を取り入れることにしました。他校を訪問して見学した授業や外部のセミナー、小・中学校の実践などを参考にブラッシュ・アップを重ね、現在は、単元で扱う歴史的な事象などについて個人・グループで学び、そこで出た疑問を基に各自で問いを立て、調べて分かったことをまとめる課題を出しています。歴史的な見方・考え方が身につくよう、問いを立てる際には歴史的な事象の比較・対比や因果関係などに着目させることも大切にしています。

授業レポート

本時の概要

- [対象] 2年生 [教科・科目] 地理歴史科・日本史探究
[単元] 律令国家への道(大化の改新～持統朝)
[単元目標] 律令国家に向けて、どのような国を目指したのか、何が起きたのかを理解すること。それらにかかわる人物や歴史的事象に関心を持つこと。
[授業時数] 全3時間のうちの2時間目



単元の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。 <https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/> または右の2次元コードからアクセスしてください。



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介!



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

1 本単元の目標と課題を確認 ⌚ 10分間



初めに篠原先生は、本単元の目標や評価の観点などをまとめたスライドを生徒の端末に配信。それをモニターに映しながら、飛鳥時代後期に関する問いを各自で設定し、調べた内容をスライドにまとめる本単元の課題について説明した。5W1Hの観点が問いの設定に生かせることなども併せて伝えた。

2 問いを立てるための調べ学習 ⌚ 15分間



前時に続き、生徒は自分が選んだ方法で学びを進めた。大半の生徒は、プリントに示された「大化の改新は何を目指したのか」「天武天皇は何をしたのか」などの設問に対して、教科書やインターネットを使って分かったことをまとめた。学習用動画を視聴して、気づいたことを話し合ったグループもあった。

3 各自の問いに基づいた調べ学習 ⌚ 15分間



生徒は、「持統天皇は女性なんだね」「当時の天皇になるための条件は何だったのだろうか」などと感想や疑問を出し合った。篠原先生は教室を回り、生徒の質問に答えたり、調べ学習の参考になる動画サイトを紹介したりした。問いを立て、調べた内容をスライドにまとめ始める生徒もいた。 ©Canva

4 自分の問いを他の生徒と共有 ⌚ 10分間



生徒は、自分が立てた問いを周りの生徒と伝え合った。篠原先生は、「まだ問いを立てられていない人は、友だちが立てた問いを参考にしましょう」と助言。最後に、大化の改新と壬申の乱についての理解度を4段階で自己評価し、分かったことや疑問点、自分が立てた問いを振り返りシートに入力した。 ©Google

発問・課題設定の観点

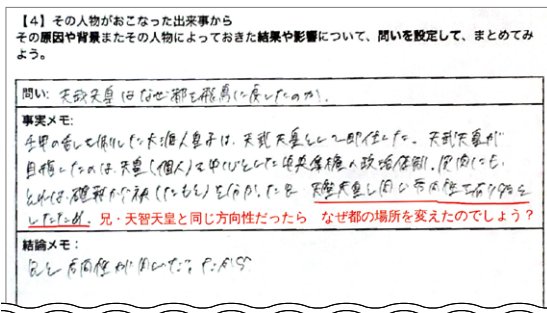


単元目標に沿った
問いを立てられるよう
着目してほしい点を示す

授業では、私が講義をすることはなく、生徒は自分で問いを立て、それを追究し、分かったことをまとめる課題に取り組みます。何を、どのような方法で調べるか、1人で、あるいは誰かと取り組むのかなどは、生徒が自分で決めて進めます。

漫然と教科書を読むだけでは疑問は出てこないで、生徒が問いを立てる際のヒントとなるよう、学習する単元で着目してほしい点を示したプリントを配布しています。例えば、飛鳥時代後期を扱った本単元では、大化の改新や壬申の乱に関する問題を出し、それを解く中で基礎知識を得られるようにしました。その上で、「それぞれの人が何を指摘したのかを比較しよう」「いつ、どこで、誰が、何のために、何を、どのようにしたのか、5W1Hで整理してみよう」などと声をかけ、歴史的な見方・考え方を働かせることを促しました。

図1 本単元のプリント 生徒の問いの記入例



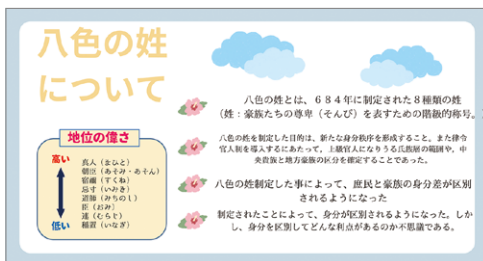
生徒が立てた問いに対して、篠原先生がコメントを記入し、調べ学習がより充実するようにしている。 ※学校資料を抜粋して掲載。

生徒が立てる問いは、学習する単元で扱う時代のことであれば何でも構いません。的外れな問いであったとしても、否定はせず、着眼点を褒めながら、その問いを生かして再考できるように助言しています(図1)。

また、自分で問いを立てることが難しい生徒が、ほかの生徒の問いを参考にすることができるよう、生徒同士で問いを伝え合ったり、問いを振り返りシートに入力して共有したりしています(P.31コラム参照)。

本単元では、「なぜ、飛鳥に都を移したのか」「なぜ、八色の姓を定められたのか」など、様々な問いが生まれました。

図2 生徒が作成したスライド(例)



スライドはオンラインのデザインソフトを使って作成する。生徒がどんな問いを立て、どのようにまとめているのか、生徒同士で見合えるようにしている。 ※学校資料をそのまま掲載。

中でも評価で大きなウエイトを占めるのは、各単元で作成するスライド(図2)などの成果物です。事前に生徒に提示した規準(図3)で評価します。

知識・技能については、生徒が自分で習得することができるよう、該当単元の基礎知識をまとめたオンラインのドリルを配信しています。その中から選択肢の順序を変えて問題を出す約10分間の小テストを、実施日を予告した上で行い、評価の材料にしています。ドリルは何度も取り組める仕様で、生徒が正解するまで粘り強く取り組んでいるか、学習の過程が分かれます。その履歴は、主体的に学習に取り組む態度の評価の1つにしています。

学習評価の工夫

定期考査に加え、
提出物や小テストなど、
普段の取り組みも重視



図3 スライドの評価の規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> テーマの内容について、正しい内容で、きちんと説明がされている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> テーマに関して、理由や結果などについて、自分の考えが書けている。 テーマについて、見る側を意識した整理・表現ができています。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 独自の問いの設定・整理ができている。 自分なりのまとめ方ができている。

※学校資料を基に編集部で作成。



生徒が自分で学びを進めるための工夫

生徒の大半は、私の授業で初めて自由進度学習を経験します。そこで、次の点に留意しています。

●毎授業、単元目標や課題、提出日などを確認

毎授業の冒頭に、単元目標や課題の内容、提出日などを伝え、生徒がすべきことを確認できるようにしています。加えて、ラーニング・ピラミッド(*)を示し、ほかの人と話し合ったり、教えたりすると学習内容が定着しやすいことを伝えています。

●1単元で扱う学習範囲を狭くする

学習範囲が広いと、扱う歴史的な事象や人物が多くなり、問いを立てづらいのではないかと考え、1単元を教科書の1節分とし、3～4コマで完結させています。

●学びの参考になることはどんどん共有

生徒が学習している間、私は教室内を回り、生徒が見ているウェブサイトや友人に質問した内容などを口頭で全体に共有し、生徒に参照するよう促していま

す。授業の最後には、本時の学習を通じて気づいたことや立てた問いなどを、生徒同士で伝え合う時間を設けています。振り返りシートはオンライン(下図)にし、生徒が互いのシートを見られるようにしました。また、授業後、振り返りシートで生徒の進捗を確認し、私が個別に助言したり、全体指導に生かしたりしています。

●問いはほかの生徒と同じでも構わない

生徒が立てる問いは、他者と同じでもよいことにしています。大事なのは、立てた問いを自分で調べる過程であり、そこで自分なりの気づきを得たり、疑問を持ったりすることを期待しています。

●「分からないこと」を大切に

「分からないことは周りに聞こう」と伝えています。質問を恥ずかしがる生徒もいますが、分からないことをそのままにせず、知りたいと思って周りに聞くという行動変容が、主体的な学びには重要だと考えています。

■オンラインの振り返りシート(抜粋)

※学校資料を抜粋して掲載。©Google

①事実把握・進み具合は？ 理解できた？					気になったこと、疑問、メモしてみよう	確認コメント	課題設定・問いづくり 誰にした？どんなテーマ？	
No.	大化の改新 乙巳の宴のこと	壬申の乱① 中大兄皇子のこと	壬申の乱② 天武天皇のこと	壬申の乱③ 持統天皇のこと			選んだ人物	問い・テーマ
10	よくわかった	だいたい大丈夫	だいたい大丈夫	だいたい大丈夫	大化の改新の理由を改めて知った。	なぜ、改革をしたのかという目的が大切ですね。	中大兄皇子	なぜ天皇中心の国家を作ろうとしたのか
11	だいたい大丈夫	だいたい大丈夫	ちょっと不安	ちょっと不安	八色の姓を制定して貴族の身分秩序を再編成しようとした	それまでがどうだったか、という視点もあると良くなると思います。	天武天皇	八色の姓について
12					蘇我氏について少し知ることができた。	蘇我氏のどんなことがわかりましたか？どんな印象を持ったでしょうね。	蘇我氏	蘇我氏はどうして殺されたのか
13					持統		持統天皇	持統天皇はどんな人

本単元のプリントの「事実を確認」の4項目について、「よくわかった～不安」の4段階の中から自分の理解度をプルダウンで選択

疑問や気づきなどを入力

自分が立てた問いを入力

「ちょっと不安」や「不安」を選択した生徒が多ければ、授業中に5～10分程度、篠原先生が該当部分を解説する。場合によっては、繰り返し復習ができるよう、解説の動画を作成して配信する。

生徒が気づきや疑問から、さらに考えを深められるよう、篠原先生がコメントを入力。

振り返りシートはクラス全体に公開しているため、ほかの生徒の問いを、自分の問いづくりの参考にすることができる。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

成果と展望

数か月でも
徐々に自分なりの
学びの形を見いだし始める



2年生は、今年度の4月から今の授業形態で学習に取り組んでいきます。授業中の様子や提出物を見ると、生徒は、自分なりの学びの形を見つけたり、まとめ方を工夫したりするようになってきています。前の単元では、「古墳時代の家と現代の家の違い」「法隆寺はなぜ地震に強いのか」などと、独自の視点で問いを立てた生徒がいました。教科書通りではなく、自分の考えを反映できる余地があることは、生徒の豊かな学びにつながると思っています。

一方で、授業中に日本史と関係のないことをしてしまったり、表面的な問いにとどまってしまうたりする生徒もいます。生徒が取り組みたい課題をどう設定するか、どうすれば深い問いを立てられるようになるのかなど、授業研究をさらに重ねていきたいと思っています。

* アメリカ国立訓練研究所が研究結果として発表した、学習方法と平均学習定着率の関係をピラミッド型で示したものの。